

2024年11月1日(金) 曇⇒雨

予報どおり雨が降ってきた。明日にかけて荒れそう。でも日曜・月曜は晴れ、その後ぐっと気温が下がるそうだから、完全衣替えのタイミング。

— どのようなPAか (2) —

当然だけど、ここに書くケースは事実の核心以外は曖昧にしている。年季をかさねているので印象的な実例は多々あるが、相手のあることだから留意しなければいけない。その上で続けよう。

ケース2: 見える仕事の見えない働き

今年の「プロ講師になろう塾」でも受講者のみなさんに、『未完自業史』を書くよう勧めた。なぜその仕事をしたいのか、どのような仕事か、今後の将来像は?と問われているつもりで800字の文章にする。所定のフォーマットがあるが、それをガイドに今はPC入力して出す人が多い。

セミナーの中で最初にこのプロセスをとり入れたのは、たぶん2006年のある創業塾だった。受講者の一人の800字が印象に残っている。書いたものを読むと、そこに事業コンセプトを言語化する種がしっかりあった。

この課題の説明をしている段階では、受講者の多くはその意図をつかめない様子だった。でも書き出すと、自分の人生の物語だから次第に入り込んでいく。

書いてはまた書き直したりして、これでいいかと自分で納得した時には、そこに独自性がよく表れている。何より自分を俯瞰できて、「書いてよかったです」となる。よいのは当方で、受講者個々人に応じた助言に役立つ。

「こういう一覧をつくって配布された方は初めてです、ずいぶん時間がかかったでしょうに、ありがとうございます」。10年後、ある起業塾の主催担当者から、そんな風に言ってもらった。

一覧をつくる目的はコンセプトデザインや実践方法のヒントを共有化するため。当方の読んだ感想、直感的に着想したコンセプト例、そのほか気づいた点などを簡潔に書いてある。実際に時間はかかる。

これを作るようになったのは、たぶん2012年からだった。だからもう通常の作業になっていた。その担当者の方の目線に感服した。「受講者のみなさんのことがよい身近に感じます、フォロー、がんばります」と話された。ほんとうに感心するほど、フォローされていた。

2024年11月2日（土）

三連休初日は雨。でも人が少なそうだから、散歩に大阪城公園へ



2024年11月5日（火） 晴れ

連休明け、晴れ。大阪は3日、4日と晴れて、絶好の衣替日和だった。あさって7日は日中15℃の予報。準備万端ととのえた。

— どのようなPAか（2） —

ケース2: 見える仕事の見えない働き（続）

受講者のまとめた800字文章をとりまとめてフィードバックする。時間はかかるけど、効用は大きい。受講者にとっても、主催者にとっても、何より講師にとっても。三方よし。

でも一度だけ、後悔したことがある。起業や創業、自業関連以外のセミナーで同じようにやろうとした。800字で書くほどまでいっていない、どちらかといえば、〈自分探し〉の若い人を対象にしたセミナーだった。だからアンケート形式のものを用意して提出してもらった。

アンケートの項目はたしか2つだけだった。書く量も少なくとも済むようにしていた。受講者は20名ほどだったと記憶している。一人ひとり読んで、一覧にしていく。

これは間違いだった。起業や自業の場合は、受講者個々人は混沌としていても、その人がやろうとすることの市場領域、活動領域はある程度定まっているから、こちらにも着想がいろいろと浮かぶ、発展の道のりがイメージできる。

でもまだ〈自分探し〉の段階の場合は、「これ」というものがないから、具体的な助言が難しい。何とフィードバックすべきか、考えあぐねて、時間のかかること、かかること。

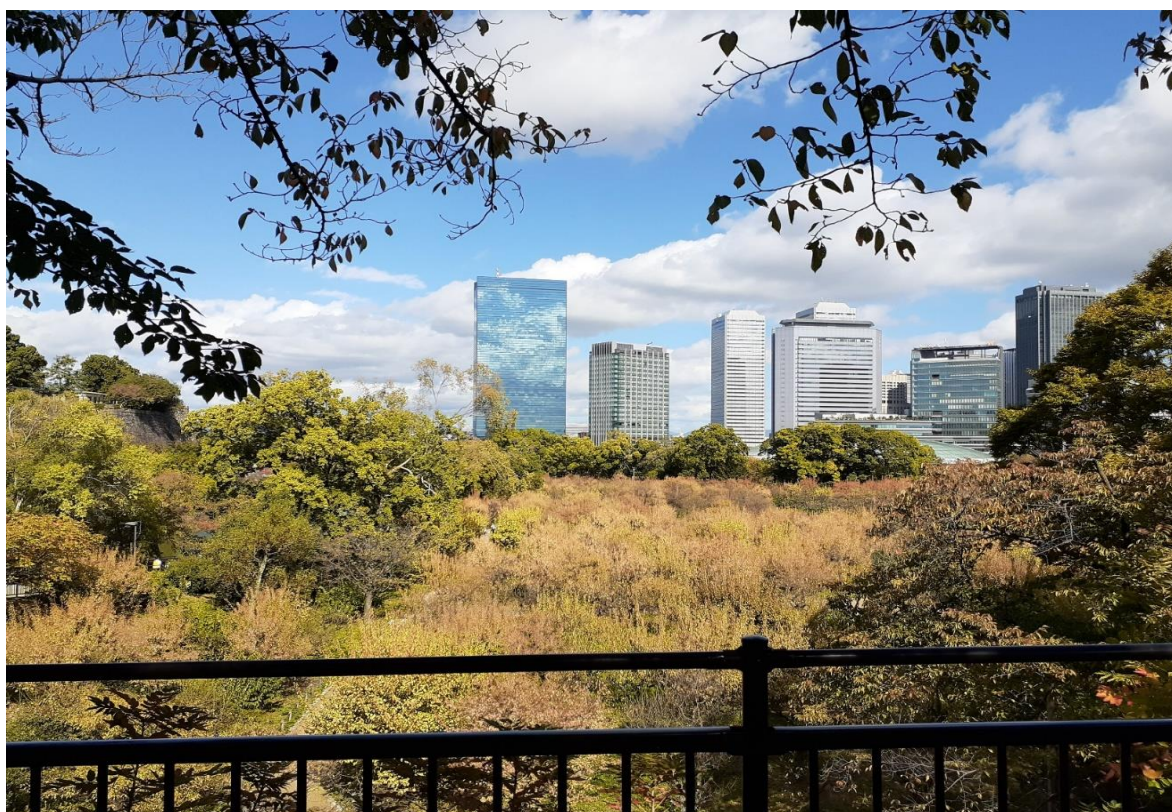
三分の1ぐらいがおわった頃には、“これは、まずった…、こんなことをするんじなかった…”。三分の二ぐらいの段階で、疲れが出だしていた。何とか全てをまとめ終わった時には疲労困憊、夜の8時を過ぎていた。予定より4時間オーバー。

ただし受講者個々人にはよかったようで、セミナー終了後、一人が側によってきて、「先生、どうしてわかるんですか、自分でも考えたことがあるんです」。名前は伏せてあるが、自分のものはわかるようになっている。「そう？ じゃ、トライしてみましょう」と励まして、送った。

でも主催者には、「すみません、もし次があったとしても、これはちょっとやめておきます」と、ワケを言った。担当者は、了解ですという表情をしながら、笑みをうかべてくれた。ほっとして会場を後にした。

2024年11月6日（水）

気温18℃前後、絶好の散歩日和、お昼にちょっと大阪城公園へ梅林を上から望んで



2024年11月7日（木）立冬 晴れ

今日は立冬、日中の気温は16℃の予報、まだコートを着るほどではない。今年ももうすぐ終わるが、まだあまりそんな感じはしない。

— どこへいくのか —

アメリカ大統領選、けっこうな差で決着がついた、第47代大統領確定。“アメリカってどういう国だろう…”, この結果に初めて関心をもった。大統領の振り返りは132年ぶりとか。

6年前にふと思いついて歴史図をつくった。それよりずいぶん前に、仕事上、時代を読むのため、1945年から2045年のものつくっていた。1945年をさらに溯ってみる必要があると感じたのだった。

時代は100年で一区切りととらえるから、1845年からを追った。すると、さらに前も追う羽目になる。結局、1745年から2045年の図があり、日本ベース、世界ベースがあり、イギリスのEU離脱など、大きな出来事の時には、別につくってみる。そうすると、節目が見えてくる。

アメリカの憲法は1788年6月に成立したらしい。修正はされても、改憲はされずに現在に至っている。産業革命が佳境に入りだした時に生まれ、AI革命のいまに生きる。

昨年夏に『世界の歴史大年表』（創元社）を訳ありで安く手にいれた。その第5章は「革命の時代 1750-1914年」となっており、1888年前後のアメリカのことは何か載っているかとみると、『南北戦争』。1861年に始まり、1865年に終結。

1988年前後は、自分でも記憶しているものばかり。インターネットの商用化あり、湾岸戦争、等など。今は1988年からの100年の佳境に入ろうとする頃。かの超富豪が新大統領を支援したのは、何かの暗示か。いろいろと想像するが、それだけにしておこう。

…世界はどこへいくのか。

2024年11月8日（金）

中之島公園バラ園へお昼散歩。秋バラもそろそろ終わり



2024年11月9日（土）

10時から「拠点ゼミ」、その前に近くの公園で日向ぼっこ



2024年11月11日（月） 晴れ

— どういうPAか (3) —

ケース2として「見える仕事の見えない働き」を書いた。たぶんこのことをじっくり見直し、紐解いた方が意味がある。

同じようなことをしても、うまくいっている人とそうでない人の差は、案外「能力」以外の、些細な、目にみえにくい小さな動きや働きかけに依ると見こんで久しい。仕事柄、たくさんの人の想いと実践をみることになるから、自他ともに観察が進む。自分なりの見立てがうまれる。

スケールは全然ちがうが老子や孫子も「微なるもの」の感知、察知を説いている。〈見えない働き〉に焦点をあてるのは大事なことだろう。

一方、「ほぼ確からしいと思える仮説あるためには7つ8つあるいはそれ以上の事実が同じ一点を指している必要がある」（中井久夫）と諭す。これを励ましと捉え、あらためて「見える仕事の見えない働き」をテーマに掘りさげてみるとしよう。

「見える仕事の見えない働き」①

独立して序章10年の中で一番の教訓というか、気づきになった仕事がある。流通センターのリニューアルを進めるトップのアシストした時だった。やることは多岐にわたる。外部の複数の業者とのやりとり、内部の担当者社員たちと協働し、大引越し作業の下準備、当日の行程立案など。

でも大きな仕事も小さな仕事も小さな仕事の積み重ね、無理のないタイムスケジュールが組まれていたから、事は順調に進んでいた。ただ一つ、相手に押されて、目をつむったのがいけなかった。

2024年11月13日(水) 晴

11日のこの覧は7日のままになっていた、いま気づいた。今日は昨日に続き晴れ。風が微かなので、いい日和。せいぜい今のうちに歩いておこう。

— どういうPAか (3) —

「見える仕事の見えない働き」① 想像すること

何に目をつむったかということ、数ある商品棚にカテゴリーごとの標示を現場責任者に勧めたのだが、「みんなわかっているから大丈夫」と事も無げにいわれ、断念した。

もちろん重ねて2度言った。事務方も参加し、現場を知るたくさんの人も散らばって作業する大引越したから、どこに何があるか、何を置くかぱっと見てわかるようにしないと作業効率が低くなる。そこかしこで、「これ、どこですか?」と大きな声があがる様子が想像できる。

それでも、「大丈夫、大丈夫」と意に介されず、仕方なく断念したのだった。本社社員も総出の引越当日、案の定、「どこに何を置けばいいか、わからない、もう!」という苛立ちの声が聞えた。

あーあ…。それでも大きなトラブルもなくメインの大作業が済んでほっとした。そしてこの一件は大切な学びを授けてくれた。まず、“ひょっとしたら、事と次第のちよっと先を想像できる人は意外にそう多くない…?”と、初めてそういうことに目が向いた。

そこで思い出したのが会社員時代の一件。会社が商品の取り込み詐欺に遭いかけた。営業担当者が代金の支払いを何度も催促していた。たまたまその電話をしていた時に本社の社長がやってきた。

中小企業の創業者らしいというか、なかなか凄みのある社長で、やりとりを聞いていて、「電話、かわれ」。先方も、詐欺をするぐらいだから、やり手に違いない。電話のやりとりは、先方の声は聞えないけど、社長の返す言葉で想像できた。なかなかの〈聞きもの〉だった。

最後に社長の放った一言、「よし、それならわかった、俺もこのままではおかんから、おぼえておけ」。けっして大声を張り上げることなく、笑みさえ浮かべて、ドスを利かせた。

とりあえずこの日はそれで終わり、翌日対応策を話し合うために社長がまたやってきた。担当者たちとミーティングをしていたそのとき、運送会社の人が入ってきて、たくさんの荷物の配達だという。

玄関そばのミーティング中の一人が、どこから?と尋ねると、当の詐欺会社からだった。「えっ?、むこうから余計なものを送ってきたのか? 受けとれない、受けとれない、持って帰って!」。

「えっ、商品じゃないんですか」と声をかけると、ミーティング中の全員が顔を見合わせ、あわてて一人が外へ出て確認、商品が返送されてきたのだった。外の声を聞き、社長がこちらを見て、「助かったな」とニンマリ。

あの電話のやりとりを聞いていたら、先方からの配達と聞いたときに、商品返送を直感する。想像するところ、先方は、“これはヤバい”、ここで何とかしておかないと後がコワイと覚った、そうに違いない。ここは諦めて商品を返すのが得策と判断するはず。そう想像できないか？

2024年11月14日（木）

穏やかな晴れ、お昼の買い物がてら、大川ぞいを散歩



2024年11月15日（金）曇

今日は朝から曇空、予報では夕方に少し雨が降るらしい。日曜までは高めの気温が続くらしい。昨日の帰り、地下鉄は冷房がかかっていた。それでちょうどぐらいだった、11月も中旬だけど。

— どういうPAか (3) —

「見える仕事の見えない働き」① 想像すること(続)

今では遠い昔だが、正社員でいくらかでも転職できる時代があった。先の中小企業もその一つだった。本社の社長の弟が支社の代表を努めていた。凄みのある兄とちがって、見た目の優しい顔つきと高めの音程で早口で話すところが〈お人よし〉な印象を与えた。ただ計算高い点はあった。

ある日、取引先の部長が支社にやってきた。事前に連絡はなかった。さ  
いわい代表は在席していた。力関係としては、こちらが上であった。オー  
プンな面談スペースに迎いいれ、小一時間ほど話していた。内容は自然  
に聞えてくる。

話がおわり、先方が出ていったと同時に、小声で「何しに来たんや…」  
と独り言のように代表。出したお茶を引きながら、「ほんとですね」と返  
した。すると、「えっ?」とこちらをみて、「どういう意味はわかるの?」と代  
表が意外そうな顔をして返してきた。「わかりますよ」。

やりとりは全て聞えていたから、他愛のない話が続いていることにヘン  
な感じがした。事前連絡もなく、こういう話をするために来たはずではな  
いのではないか。目的はあるけど、言い出せずにいるのか、それとも、単  
に親交を深めたいだけなのか、それだといったら、あまりにラフすぎる。だ  
から、何しに来たんだろうと量っていたのだった。今もよく憶えている一  
件。

状況を頭に浮かべる、想像する。それは具体的な何かをしなければなら  
ない時に、何をした方がよいのかの判断の適切さを左右するだろう。  
会社員時代から、ある程度はイメージできて、仕事してきた。そういうこと  
を特別視したことはない。流通センターのアシストの一件が初めて。

その時ここに刻んだ。仕事上で、特に下準備にあたるような作業の  
場合、相手が軽くみても、それに同調せず、想定できるところをできる  
だけ詳しく伝えて、簡単には妥協しない。そう自分に言い聞かせた。そ  
の時の感覚は今もしっかりカラダが憶えている。

2024年11月18日(月) 晴・曇

おととい昨日と空気が生暖かかった。今日は昨日より気温が7度さが  
り17℃前後の予報。風はさほど強くないから、寒さはそれほど感じな  
い。今週金曜は「小雪」。

— 習慣、印象、閃き —

いま再読している『数学する人生』の中に「人の記憶というものは、駄  
目なものである。印象でなければ役に立たない」という一文がある。「た  
しかに…」と感心して、その箇所に付箋をつけた。

記録していなくても、ずっと記録していて、昨日のこのように情景が浮  
かび、感覚までよみがえるのは、印象的なこと。受験勉強のように憶え  
たものはいっさい残っていない。

小学3,4年生ごろの夏休みの午後。小さな裏庭の縁台に寝そべり見  
上げた小さな画面の青空、見下ろした土面に這うアリの列。

なぜか一緒にお茶した母の友人。「なんだかんだと言いながら、平々  
凡々に生きると思います」と言ったら、「あなたはそうならないよ」。その  
理由を聞き返すこともできず、ただ、“…?”の未熟なわが身。

この他にも象徴的で印象的なことがある。何かの拍子に思い出し、タ  
イムスリップしたように、そこに還る。〈何かの拍子〉というのが、「中井久  
夫」のいう「索引」だろうか。そして「余韻」を味わう。



『見える仕事の見えない働き』は、記憶していないけど記憶していることを書こうとしている。自身にとって印象的なことが自分ならではの要素を紐解いてくれると考えたから。

まだ書き始めたばかりだが、「印象」そのものの〈値打ち〉を再認識している。これまで以上にすごく大事なことのように感じ始めた。人にとって「印象的なこと」はその人の人生を解く鍵のような…。

人生の質は習慣で依る。そう覚えて久しいが、いやいや、そこに「印象」を加えなくては。さらに、「閃き」があって、自分を拓く、自分の世界が開く。そんなことが閃いた今日この頃。

あなたのわたしのライフに、習慣、印象、閃きを！

2024年11月20日(水) 晴

今日は一日晴天のよう、気温は15℃前後、陽も照って、散歩にはちょうどよさそう。紅葉もすすんできた。クリスマスツリーもそこかしこにお目見え。この季節らしい雰囲気。

— どのようなPAか (3) —

『見える仕事の見えない働き』② ロに出すこと

10代の頃は無口だった。あまりにしゃべらなすぎて、逆に気になると言われたこともある。友人や先輩たちのグループで会話に入ることはほとんどなかった。さめた感じに見えるのが、関心をそそったのか。

親しい友人との二人の会話の場合では、2時間ぐらいは普通にしゃべっていた。おたがいの現在のこと、未来のこと、はたまた社会のこと、本のこと、等等。話は尽きることがない。

ほどほどにして珈琲専門店を出た帰り路、友人が満足げな表情で言ったことが今も鮮明に憶えている。「あんたとやったら、何時間でもしゃべれる」。たしかJR京橋駅の高架下あたりだった。

こんな感じだから、全体としては静かな、落ち着いた印象の10代だったろうと思う。友人たち5人の間で行き違いがあった時、一人が偏った正義感を振りかざし、みんなを詰問し始めたことがあった。おもわず声が出て、諭した。普段の無口が功を奏したか、事は納まったから。

成人してからは、さすがに無口ということはなくなった。たわい無い話は受け身で、ふみこんで話すような内容でよく話し合った。当時はまったく気づいていないけど、いま思えば、「なぜ？」が、思考の水面下でちゃぷちゃぷしていたのかもしれない。

2024年11月22日(金)小雪 晴

今日は19℃まで上がるらしい。朝から晴れた空が広がる。といっても、堺筋は幅が狭いから、見上げる空は小さな画枠。そのぶん青さが際だつ。風は微か、散歩日和。

— どのようなPAか (3) —

『見える仕事の見えない」働き』② ロに出すこと(続)

会社員時代、最初に働いた時から上に「物申す」人間だった。たまたま男性ばかりの会社で、若くても女性ということで大目にみられたのかもしれない。

もともと、まったくキャピキャピしていないし、物言いは落ち着いているので、“何か申し入れをするからにはよほどだろう…”という印象は与えたと思う。とりえずは聞いてみよう。

最初の会社でもその後も、どの人からもスルーされることはなかった。先の「想像すること」のエピソードの会社ではこんな風だった。ある日、「ちょっとお時間よろしいですか?」と社長に言った。

背丈があり、切れ者で、経営者仲間からも一目おかれているその社長、何をいわれたか咄嗟にはピンとこない様子だった。「いま、お時間、大丈夫ですか?」と重ねて初めて、「ああ、いいよ…」。

「じゃ、社長室で」と促したのはこちらだった。すこし戸惑うように自分の専用室へいく社長の後ろをついていき、応接セットのソファにすわった。社長は、コワイようなうれいような、そんな微妙な表情で、「それで、何? どうした?」。

話したのは事務の流れと関係の話だった。現状を伝えて、自分の思いつく改善点を話して、検討してほしいと伝えた。社長はまず話の内容に安心したようだった。しだいに満足げな表情になった。個人的なことではなく、仕事全体をみての話だから会社のためになる。

会社員最後の会社は半官半民のような外資企業だった。ここでは別部署の上司に一度、そして退職を決めて最後の日の前日に、トップのマネージャーに一つ提案して辞めた。それがすぐに採用されると元同僚が教えてくれた。

それにしても、なぜこういう風にするだろう、できるのだろう。

2024年11月23日（土）

森ノ宮駅から大阪城公園をぬけてクレオ大阪東館へ

今年度の「プロ講師になろう塾」受講者に「よる「秋の一日教室」を向かうのに、せっかくだから森ノ宮から公園をぶらぶら歩いて行きました。

金沢から鳥取へむかう途中で会いに来てくれた元受講者の人と10時15分に待ちあわせていましたが、彼女はすでに着いていました。一年ぶりです。

さっそくみなさんにも紹介して、中にはよい情報交換ができた人もいました。イキイキと活動する女性たちの交流、いいものです。仕事でなが居できなかったのが残念。



2024年11月25日（月） 晴

今朝はよく晴れている。一日このままのようで、気温も17℃前後らしいから、歩くのにちょうどいい。土曜の午後、御堂筋を横切ったが、銀杏並木はほぼ青いまま、11月もう終わりますが…。

— 媒体 —

初対面でもなぜかすごく親しみを感じてもらう時がある。17年前のあるセミナーで一番前にすわっていた人もそうで、今も交流が続いている。遠いところに住んでいるのに、移動のついでにと大阪へ寄ってくれる。一昨日の土曜、一年ぶりに会った。

当日はクレオ大阪東館のイベント、プロ講師になろう塾受講者たちの「秋の一日教室」へ出かけることにしていた。わざわざそこまで足を運んでくれた。せっかくだから受講者のみなさんに紹介した。おもしろいもので、思いがけず良い情報交換ができた人もいた。

こういった偶然が時に未来を拓く。たまたま話題に出た情報や考え、視点が、小さからぬ人生の決断へつながることもある。個人的な経験では、その極めつけは、1991年の独立であった。

人間が最大の媒体。「秋の一日教室」の開始前、みなさんとの立ち話をしている、それを実感した。塾への受講のきっかけも、一緒にコラボすることになったのも、そこに人のちょっとした働きかけ、勧め、情報提供があって、一方のあるいは双方の今日とはちがう明日がうまれる。

自分も貴重な媒体。そう意識すると、一定の節度と好意的ふるまいが身についてくるのではないか。ちょっとそんなことを考えた週の初め。

2024年11月27日(水) 曇

今朝はまだ曇空、徐々に晴れてくる予報だったが、ほんの薄日。このまま夜にまた雨のよう。昨夜11時前に5秒ぐらい揺れた。震源は近畿か、いやひょっとして…、スマホを開くと能登で震度5弱。元日を思い出した。

— どのようなPAか (3) —

『見える仕事の見えない働き』② 口に出すこと(続2)

ずっとやってきたことを、そのままでもできないことはないけど、手順ややり方を少し変えるだけで、もう少しスムーズに事が運ぶ。そう見てとった時に、責任者でもなんでもないので、それを口に出す。

組織の末端にいる人間でそうする人がいる、いないなんて、考えたこともなかった。ムリやムダがなくなって、仕事がしやすくなるから全体にいいのではないかという、ごく単純で淡白な認識だった。

でも、なぜそうするのか。今回、ひょっとすると、「思考の型」と関係しているかもしれないと、初めてそこに目がいった。「思考の型」については2019年4月の臨時レターに載せている。

[LEESletterNew20190405.pdf](#)

典型的な「面型」、全体の構造が漠然とでも把握できていないと、わかった感じがなく、情報が頭に入りにくい。

中小企業診断士の受験勉強の仕方が象徴している。中小企業施策の全体構造を図形ソフトで組立ていった。完成してプリントアウトした紙面を勉強仲間が見て、感嘆。でもその紙はもうあまり役に立たない、作る過程に意味がある。

部分の仕事が他の部分とどうつながっているか、なぜ自分はこの仕事をするのか。全体は何か目的をもってやるのだから、その部分のところでも、その根本がわからないとやる意味を感じない。そういう思考パターンなのが、影響していそうな気がする。

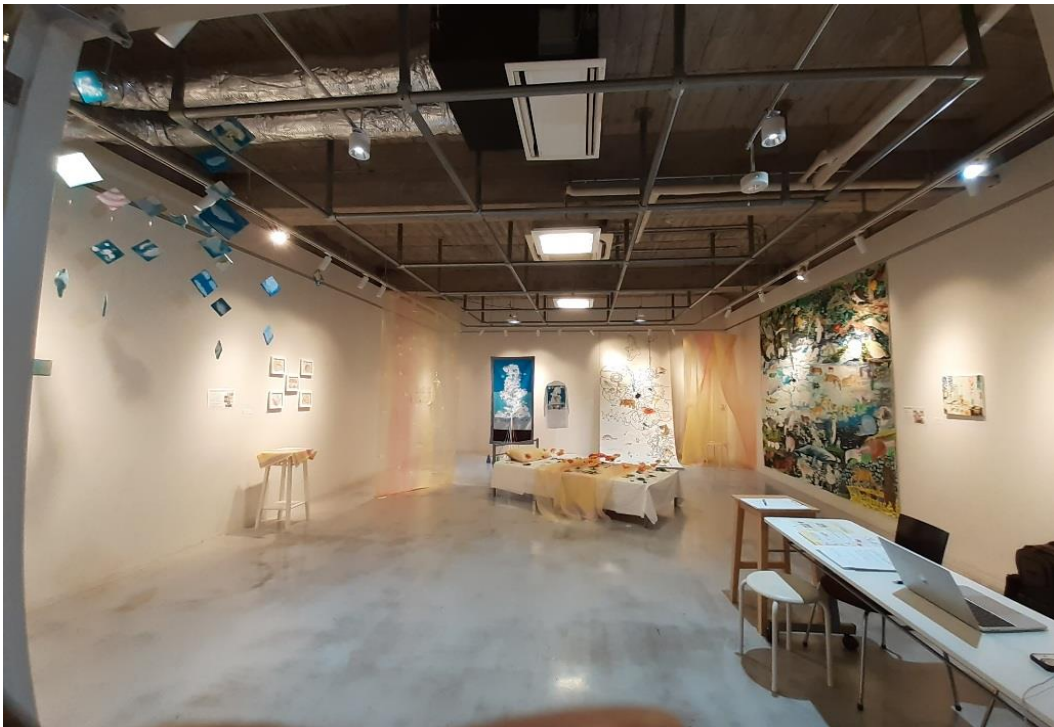
ただし、時に、「空気が読めない」存在になり得る。

2024年11月29日（金）

ホスピタリティーアートの展示へ

今年も「ひといろプロジェクト」から案内をいただき、ギャラリーへ行ってきました。詳細は以下の「お知らせ」にありますが、いつもながら静寂の空間です。続いている、続いていることに敬服。

[ホスピタルアート in ギャラリーの企画主催 - ひといろプロジェクト お知らせ](#)





2024年11月29日(金) 曇→晴

夜中に雨が降り、風も強かったが、断片的でヘンな感じがして睡眠を妨げられた。早朝もまたパツと降った。これから徐々に晴れてくるようだけど、イギリスでは洪水で被害すごいからしい、韓国では観測史上最大の積雪がなったらしいし…。

— どのようなPAか (3) —

『見える仕事の見えない働き』② 口に出すこと(続3)

かれこれ25年ほど前、独立してからのこと。誘われて参加した診断士グループの例会。メンバーは旧知の人たちばかりだから、例会には初参加だけど、新参者の意識はなかった。いつも例会がどんな風かわからないので、まずは様子を見る。ちなみにメンバーはみな男性で4名だった。

“なにをしてるのかな…”。しだいに疑問がわいてきた。共同で受託したコンサル案件の担当をどうするか、リーダー担当の人が皆にふる。率先して引き受ける人はなく、のらりくらの返答。

いったん別の検討事項へ移る。次年度のリーダーを誰かするか。これまた遅々として話が進まない。ちょっと目が点になった。自分たちの仕事からして、こんな会議の仕方をしていいのか。

「ちょっと、待ってください、この例会は何のためのものですか?」。口火を切ってしまった。感じていることをはっきり言った。メンバーは意表を突かれた感じだった。

こちらの真剣な表情とあきれた感が漂っていたのが功を奏したか、その後の進行が変わった。終わってから飲み会にもなった。一人が、「いや、よかった、こんな例会は初めて」。

初めて、とは内心あきれたけど、ひょっとすると目にみえい不文律があったのかもしれない。リーダー担当の人はリーダーをやりたい。受託案件も自分がメインになりたい。他のメンバーはそう気づいているから、白けている。なら、解散すればいいのに、対外的にはボリューム感をだせる。

だとしたら、こちらが空気を読めず、余計なことを言った。でも自分]ではそのつもりはない。そういうグループの一員でいることは自分の思考性がゆるさない。すぐにメンバーからはずれることにした。